

## 第 1516 回 8 月第二例会



令和 5 年 8 月 22 日  
(火) 金沢ニューグランドホテルにて、第 1516 回通常例会が開催されました。

細川会長の挨拶では、「120 年ぶりの 38.5 度を観測するなど猛暑が続いています。世界的にも、

7 月の気温は観測史上過去最高となりました。国際労働機関 (ILO) は熱ストレスで 2030 年には 350 兆円の経済的損失がでると試算している」ことを述べられました。

次に、俳句の紹介がありました。お盆に墓参りに行ったとき鳴いていた蝉から一句、

### 【墓参りいづれそちらへ蝉の声】

「閑さや岩にしみ入る蝉の声」という有名な句もあります。蝉の一生とは、土の中で 7 年過ごし、土から出て 1 週間しか生きられない。蝉の鳴き声は時間がないことを訴えているように聞こえますが、そうではなく、時間がないことを跳ね返す強さを感じて作った句ですと説明されました。

更に、一般財団法人石川ライオンズ奉仕財団に評議員として参加したことを報告され、最後に、卯辰山清掃活動に参加して、卯辰山に観光客を誘致するためにも、卯辰山のMAPを作成したいと述べられました

### 【本日の昼食】

金沢ニューグランドホテルさんの中華風お弁当



各種報告 PR 事項では、卯辰山清掃活動の報告を地域環境委員長の L.嶋崎隆之から、早朝ですが暑い中 19 名も参加していただきありがとうございましたとの報告が、世界ライオンズ奉仕デー「ヘルメット普及運動」を 9 月 21 日 (木) に行うことを L.東龍盛から報告がありました。



本日のゲストスピーチは西山産業開発株式会社代



表取締役の西山博之様をお招きして行いました。

「牛首紬」は世界第 2 次大戦後壊滅的なダメージを受けましたが、牛首紬が大好きだった西山様のおじいさまがなんとか存

続させたいとの意向を受けて、昭和 30 年代になってから西山様の家族で存続に取り組んだそうです。当時はまだ職人も何名か残っていて、再現することは出来たそうですが、販路が閉じてしまっていて大変苦勞なされたそうですが、現在では大島紬 (鹿児島)、結城紬 (茨城県、栃木県) と並び日本三大紬のひとつと呼ばれるまでになったそうです。

しかし、呉服産業自体が昭和 56 年には 1 兆 8,000 億円あった市場が、そこをピークに現在では 2,000 億円の市場までに減少し、牛首紬自身もピーク時の 4 分の 1 にまで減少しました。どうやって牛首紬を存続させるか悩んだ末に、牛首紬の生地に着目し、現在のライフスタイルに合った「ものづくり」に取り組む事にしたそうです。テキスタイル (織物とその材料) の世界的に有名な展示会に出展し、牛首紬のクオリティーについては最高の評価を受けたものの、最後の値段交渉では折り合いが合わず、そこでも限界を感じていたところ、2016 年にエルメスのデザイナーだった寺西俊介氏と出会ったそうです。寺西氏は牛首紬の生地非常に感動し、伝統産業の新たな価値を装いで提案する「アルルナータ」を 2018 年にスタートさせました。

海外経験を通じて、伝統産業とは、①変革を恐れないマインドを持つこと、②変革するとき「変えてもいいもの」と、「変えてはいけないもの」があることを知ること、③その見極めのため自分のアイデンティティをしっかりと知ることが大切であり、「伝統産業とは革新の連続である」、その時代の最高の智慧と最高の努力をつぎこんで、それが一つの小さな輪になってその輪がつながって行くことが伝統であると感じていますと伝えていただきました。



最後にテールツイスターの L.永野琢也が登場し、ドネーションの発表をして第 1516 回通常例会は終了しました。

(記事:中村吉興計画委員長)